

なら地域通貨体験イベント

「使って納得、地域通貨の可能性」開催

12月14日、なら100年会館で、なら地域通貨体験イベント「使って納得、地域通貨の可能性」(財)社会教育財団主催)が開催された。今回、試験的に会場内だけで使える「エンデ」という地域通貨が発行された。(1エンデ=100円)

来場者は千円を地域通貨エンデに交換。会場内には『賑わい市』として「サリーの着付け」5エンデ、「アクセサリー」7エンデ、「中華ちまき」2エンデなどと値札をつけた店が並び、エンデと引き換えにサービスや商品を提供した。また、特設ステージではラップミュージックのダンサー達がボランティア出演、主催者からありがとうの気持ちを伝えるエンデを受け取った。

全国に地域通貨ブームを起こすきっかけとなった番組「エンデの遺言」を製作したNHK放送総局エグゼクティブプロデューサー 河邑厚德氏が「エンデが鳴らした警鐘～お金とは何か～」と題して講演、約200名が聴講した。

「貨幣は実際になされた仕事や物の実態に対応する価値として位置づけるべき。重要なポイントはたとえばパン屋でパンを買う購入代金としてのお金と、株式取引所で扱われる資本としてのお金は2つの全く異なった種類のお金と認識すべき。」と説明された。(上田)

【地域通貨とは】日本円や米ドル(法定通貨)などとは違うお金。国が発行するのではなく、市民、地域共同体が発行する。法定通貨は全国で使えるが、地域通貨は国の中でも限られた範囲でしか使えない。利子がつかず投機の対象とならない。人々の信用と信頼によって支えられる。発行方法は「紙幣発行型」と「通帳発行型」などがある。



NHK 放送総局 河邑厚德氏